

# 大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona\_toukai@yahoo.co.jp

議会建設経済環境委員会で、5月12日に

## 茨城空港建設状況を視察

来年3月に開港予定の茨城空港は航空自衛隊百里基地との軍民共用です。すでに自衛隊が利用している新滑走路は130トンの中型機対応で、海外格安航空会社の大型機には対応していません。

茨城県担当職員の説明では、「茨城県としては試算していないが、国土交通省は年間81万人の利用者を予測している。茨城空港の羽田にはない特徴として、楽しむ利用より移動手段としての利用促進を考えている。韓国アジアナ航空が、茨城-ソウル便を毎日運航の予定。国内線の就航は1本も決まっていない・・・」とのこと。

説明を聞いてもここに空港建設の必要性が感じられずに首をかしげていると、離陸するF4ファントムのあまりにすさまじい爆音に身がすくみました。

「羽田に担えない役割」、「1,300台の無料駐車場」などアピールしていますが、空港本体整備だけで220億円という血税を投入する使い方は無駄遣いそのものです。

日本共産党会派で、5月14日に

## 福島県郡山市三穂田町で 産廃処分場建設をやめさせた住民のみなさんと意見交換

(裁判で、住民側主張が100%認められ和解勝利)



元原告の方の自宅庭で

宮城県村田町竹之内産廃処分場を視察し、「周辺の木々が硫化水素ガスで枯れ果て、腐った卵のような強烈な悪臭が今でも……。因果関係が示されていませんが、呼吸器疾患やアレルギー反応、ガンや中枢神経麻痺で通院する人が多発し、老人の病死が相次いでいる……」という実態を目の当たりにし、「処分場設置をやめさせるのは、三穂田町は今なら間に合う」と確信したそうです。

2005年3月に住民の会を結成し、市当局との交渉、ノスリ観察会、記者会見、市長面談申し入れ(郡山市は中核都市なので設置許可者は市長)、500人規模での産廃問題市民大講演会、シンポジウム、そばまつりやするめ販売で資金づくり、400人規模での決起集会などなど、大胆にとりくみをすすめ、2006年6月27日、原告団7人、弁護団2人で建設差止め提訴。その後も旺盛な住民運動を繰り広げ、2006年12月19日に開かれた第2回裁判で全面勝利和解。この間マスコミも大変な注目で運動を支援したということでした。紙面の都合で内容をご報告しきれませんが、大豊プラント問題で学ぶところ大でした。



建設予定地だった場所へ向う

日本共産党会派で、5月13日に

## 宮城県涌谷町の医療福祉を視察



涌谷町民医療福祉センター



石巻線涌谷駅にて

医療福祉センター設立の目標は、「町民とセンターの職員の相互協力により、町民一人一人が『安らかに生まれ』『健やかに育ち』『朗らかに働き』『和やかに老いる』ことを通して、その人らしいかけがえのない人生を送ることをめざします」とうたわれ、その役割は、「町民の日常生活を通しての健康づくりから、病気の予防・早期発見・即刻治療・悪化予防・再発防止・継続療養・リハビリテーション、介護及び福祉事業まで総合的なお手伝いをいたします」と、すばらしい保健・医療・福祉の連携事業が展開されていました。

本村でどう学べばよいのか、まず村の構想が大事、そして病院と一致したとりくみを進めることと思いました。